



大型計算機センターニュース

福岡市東区箱崎六丁目10番1号
九州大学大型計算機センター

目次

1. スーパーコンピュータVP2600/10の暫定運用の終了について	1
2. M-VPP連携機能のパラメータ追加のお知らせ	2
3. M-VPP連携機能におけるバイナリデータの変換方法について	2
4. 『VPP700/56利用の手引《暫定版》』について	3
5. UNIX版SASのレベルアップのお知らせ	3
6. VPP700/56版MARC, Mentat II公開のお知らせ	4
7. VPP700/56へのライブラリ移行のお知らせ	9
8. UXP用学情網アクセスポイント及びINSパケット通信 による利用方法の変更について	10
9. 可視化システムの利用について	12
10. 平成9年度プログラム相談員募集のお知らせ	17

大型計算機センターWWWホームページ

<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp>

1. スーパーコンピュータVP2600/10の暫定運用の終了について

平成9年1月7日(火)から新スーパーコンピュータVPP700/56の運用を開始していますが、利用者のジョブの新システムへのスムーズな移行をしていただくために、現在旧システムVP2600/10の並行運用をしています。

この並行運用は平成9年2月28日(金)までで終了いたします。なお、期限までに処理できなかったジョブ(実行途中のジョブも含む)は、キャンセル処理をしますのであらかじめご了承ください。

(システム運用掛 ダイヤルイン 092-642-2307)

2. M-VPP 連携機能のパラメータ追加のお知らせ

汎用計算機 M-1800/20U の MSP システムから VPP700/56 ヘジォブを投入する M-VPP 連携機能に、FORT.SYSIN で指定した区分データセットのメンバすべてを翻訳するオプション ELM(*) の代替パラメータ VPPSRC=PO を追加しました。パラメータはカタログプロシジャ FORT に指定します。

【使用例】

区分データセット A79999A.PROG.FORT の全メンバを翻訳する。

```
//A79999AW JOB CLASS=W
// EXEC FORT,VPP=YES,OPTION='-Ps -Wv,-m3',VPPSRC=PO
//FORT.SYSIN DD DSN=A79999A.PROG.FORT,DISP=SHR
//
```

なお、VPPSRC=PO の指定は、VPP=YES が指定されたときのみ有効です。

(ライブラリ室 ダイヤルイン 092-642-2295)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

3. M-VPP 連携機能におけるバイナリデータの変換方法について

汎用計算機 M-1800/20U の MSP システムから VPP700/56 ヘジォブを投入する M-VPP 連携機能を用いて M-1800/20U, VP2600/10 用のバイナリデータ (IBM 形式) を read/write する Fortran プログラムは、必ず DD 文の DATATYPE パラメータの第一パラメータに FBIN を指定してください。

【使用例】

```
//A79999AW JOB CLASS=W
// EXEC FORT,VPP=YES,OPTION='-Ps -Wv,-m3'
//FORT.SYSIN DD DSN=A79999A.PROG.FORT,DISP=SHR
//GO.FT01F001 DD DSN=A79999A.IN.DATA,DISP=SHR,DATYPE=(FBIN)
//GO.FT02F001 DD DSN=A79999A.OUT.DATA,DISP=(NEW,CATLG),UNIT=PUB,
// SPACE=(TRK,(100,10),RLSE),DATYPE=(FBIN)
//
```

(ライブラリ室 ダイヤルイン 092-642-2295)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

4. 『VPP700/56 利用の手引《暫定版》』について

『VPP700/56 利用の手引』の暫定版を PostScript 形式 (150 ページ, 約 10MB) のファイルとして kyu-cc の /usr/local/doc/VPP700guide.ps に公開します。

ファイルが大きいため, センター 2 階のネットワークプリンタでの両面印刷をお勧めします。

```
kyu-cc% lp -Tps -y "side=both" /usr/local/doc/VPP700guide.ps ↵ <-- 両面印刷
kyu-cc% lp -Tps /usr/local/doc/VPP700guide.ps ↵ <-- 片面印刷
```

なお, 印刷命令はセンター内から出すようお願いします。

(ライブラリ室 ダイヤルイン 092-642-2295)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

5. UNIX 版 SAS のレベルアップのお知らせ

アプリケーション・サーバー qapls(IP アドレス 133.5.8.40) 上で公開している UNIX 版 SAS のバージョンを 6.09 から 6.11 にレベルアップします。起動コマンドは sas611(/usr/local/bin/sas611) です。また, 6.09 も引続き公開します。

UNIX 版 SAS は X サーバーが動作するワークステーション, X 端末で動作します。環境の設定方法はセンターニュース No.545 を参照ください。

● X Window 環境以外からの利用

パーソナルコンピュータから telnet 経由で SAS を利用する場合は, -fsdevice ascii.vt100 また, 罫線が文字化けする時は -fsdevice ascii.vt100nav オプションを付加することによりフルスクリーン環境が起動します。

```
qapls% sas611 -fsdevice ascii.vt100nav ↵
```

● SAS/GRAPH の出力デバイスの変更方法

SAS/GRAPH のグラフィックス出力デバイスをファイルから画面に変更するには,

```
goptions device=xcolor;
```

を指定します。また, ファイルの参照名をクリアする場合は, goption の gaccess の指定を削除したのち,

```
filename gsasfile;
```

を指定します。

(ライブラリ室 ダイヤルイン 092-642-2295)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

6. VPP700/56版 MARC.Mentat II 公開のお知らせ

有限要素法による汎用非線形構造解析プログラム MARC K6.2 をスーパーコンピュータ VPP700/56 上で、また、会話型プリポストプロセッサ Mentat II 2.3 をアプリケーションサーバー vhsun 上でそれぞれ公開します。

VP2600/10 の MSP で公開中の MARC K5.2 は、VP2600/10 の撤去にともない 2 月末日 で運用を停止します。ただし、MARC K5.2 のプログラムおよび入出力データは汎用計算機 M-1800/20U の MSP システムにそのまま保存されます。

センターのワークステーション qviss, medics で公開中の旧バージョンの Mentat は 3 月末日で運用を停止し、新バージョンに一本化する予定ですので、早めの移行をお願いします。

なお、MARC K6.2 は 1PE での動作です。

● MARC の利用方法

◇利用環境

MARC の利用は汎用計算機 M-1800/20U の UXP システム (ホスト名 kyu-cc, IP アドレス 133.5.9.1) からパッチリクエスト (NQS) により行ないます。 MSP からの利用はできません。

◇MSP からのデータ転送

従来の MSP の資産を引続き利用する場合は、汎用計算機の MSP システム (ホスト名 kyu-msp, IP アドレス 133.5.9.2) から kyu-cc に ftp でデータを転送してください。

```
kyu-cc% ftp kyu-msp [↵] <--- kyu-cc から ftp
Connected to kyu-msp.
220 Service ready for new user
Name (kyu-msp:a79999a): a79999a [↵] <--- ID
331 User name okay, need password
Password: [↵] <--- MSP のパスワード
230 User logged in, proceed
ftp> get marc.data marc.dat [↵] <--- MARC.DATA を marc.dat として転送
200 Command okay
150 File status okay;about to open data connection
226 File transfer complete
local: marc.data remote: marc.dat
1709536 bytes received in 2.9 seconds (5.7e+02 Kbytes/s)
ftp> quit [↵] <--- ftp の終了
221 Service closing CONTROL connection
```

MSP(kyu-msp) から UXP(kyu-cc) へのデータ転送では、以下の点に注意してください。

- MARC の入力データは行番号を PFD の unnn サブコマンドで取り除いて転送します。
- 行番号付きのデータを転送した場合は、転送したファイルの 73-80 桁に行番号がついています。行番号は以下の手順で取り除くことができます。

```
kyu-cc% cut -c1-72 marc.dat > marc1.dat [↵]
```

- UXP 側の入力データファイルのサフィックスは必ず “.dat” とします。

◇MARC の動作するディレクトリ

MARC の入力データファイルは、kyu-cc のホームディレクトリ下の VPP ディレクトリに作成します (VPP700/56 で Fortran, C プログラムを実行する要領と同じです)。

例として、MARC 用のディレクトリ MARC を VPP 下に作成します。

```
kyu-cc% cd ~/VPP      <--- VPP700/56 の作業用ディレクトリに移動
kyu-cc% mkdir MARC   <--- MARC 用のディレクトリの作成 (あくまでも例です)
kyu-cc% cd MARC      <--- MARC 用のディレクトリ (例) への移動
```

◇サンプルプログラム

MARC マニュアル《E 編》の入力データ、ユーザーサブルーチン集を

/usr/local/doc/demo/marck62

に公開しています。各自コピーして参照下さい。

例では、e2x1.dat, e2x14.dat, u2x14.f をコピーしています。

```
kyu-cc% ls /usr/local/doc/demo/marck62 | more <--- 一覧表示
kyu-cc% cp /usr/local/doc/demo/marck62/e2x1.dat . <--- サンプルのコピー例
kyu-cc% cp /usr/local/doc/demo/marck62/e2x14.dat .
kyu-cc% cp /usr/local/doc/demo/marck62/u2x14.f .
```

◇MARC の動作するキュー

VPP700/56 での MARC の実行は、Fortran, C と同様「バッチリクエスト」と呼ばれるシェルスクリプトに処理手順を記述し、qsub コマンドでジョブを投入します。投入できるキューは以下の通りです。

キュー名	CPU 時間	記憶域	処理形態
s'	60 分	1.7GB	1PE
p1	1200 分	1.7GB	1PE

バッチキューの指定を省略すると p1 キューに投入されます。

◇marck62 コマンド

MARC の処理は marck62 コマンドで行ないます。

指定可能なオプションは以下の通りです。なお、これ以外の MARC オプションを指定すると、永久待ちが発生する可能性がありますのでご注意ください。

<code>-jid</code> _{jobname}	ジョブファイル名を与えます。通常は“ <code>jobname.dat</code> ”という名前の入力データファイルとなります。
<code>-prog</code> _{programe}	ユーザーサブルーチン付のジョブを実行したときにセーブした実行ファイル“ <code>programe.marc</code> ”を実行します。
<code>-user</code> _{username}	ユーザーサブルーチン“ <code>username.f</code> ”を使って“ <code>username.marc</code> ”という名前の新しい実行ファイルを作成し、実行します。
<code>-save</code> _{yes}	ユーザーサブルーチンを組み込んで作成した実行ファイル“ <code>username.marc</code> ”を保存することを指示します。
<code>-rid</code> _{restart-name}	リスタートファイルを出力するように指定して前もって実行したジョブのジョブファイル名を与えます。
<code>-pid</code> _{postname}	温度情報を持ったポストファイルを作成するために前もって実行したジョブのジョブファイル名を与えます。
<code>-pid</code> _{substructure}	サブストラクチャを使用するジョブで使用します。サブストラクチャファイル名は“ <code>substructure.t31</code> ”となります。

- MARC の入力データは常に“`jobname.dat`”というファイル名であることが必要です。つまり拡張子は“`.dat`”となります。
- ユーザーサブルーチンを使って作成した実行ファイルはかなりの容量となりますので注意願います。

◇バッチリクエストの記述例

- ジョブ `e2x1` を実行します。入力データは `e2x1.dat` です。

```
#                <--- csh を起動
cd MARC          <--- ディレクトリの移動
marck62 -jid e2x1 <--- MARC の実行
```

- ジョブ `e2x14` をユーザーサブルーチン `u2x14` を使って実行します。ユーザーサブルーチンファイルは `u2x14.f`、入力データは `e2x14.dat` です。また、新規に作成された実行ファイル `u2x14.marc` をジョブの終了後も保存します。

```
#
cd MARC
marck62 -jid e2x14 -user u2x14 -save yes
```

- 先の例題で作成した実行ファイル `u2x14.marc` を用いて再びジョブ `e2x14` を実行します。

```
#
cd MARC
marck62 -jid e2x14 -prog u2x14
```

- リスタートオプションを記述したジョブ `e3x2a` を実行します。

```
#
cd MARC
marck62 -jid e3x2a
```

- ジョブ e3x2a の結果を用いてリスタートジョブ e3x2b を実行します。

```
#
cd MARC
marck62 -jid e3x2b -rid e3x2a
```

◇バッチリクエストの投入

先の例の手順で作成したバッチリクエストファイル名を `marc.sh` とします。バッチリクエストの投入は `qsub` コマンドです。

```
kyu-cc% qsub marc.sh [ ] <--- p1 キューに投入
Request 11261 kyu-cc submitted to queue: p1.
```

s キューに投入する場合は、`-q s` オプションをつけます。

```
kyu-cc% qsub -q s marc.sh [ ] <--- s キューに投入
Request 11262 kyu-cc submitted to queue: s.
```

なお、バッチリクエストの投入、状態表示、キャンセルの手順の詳細はセンターニュース No.550, pp.13-15, または『VPP700/56 利用の手引《暫定版》』を参照下さい。

◇ファイルとユニット番号の対応

MARC の使用するファイルとユニット番号は以下の通りです。

サフィックス	番号	説明	形式
.log	0	エラーメッセージなどの出力用	テキスト
.t01	1	フォーマット形式のデータ	通常はメッシュデータ
.t02	2	Out-Of-Core ソルバー用スクラッチ	ランダムアクセス, バイナリ
.t03	3	ELSTO	順次アクセス, バイナリ
.t04	4	neutral-plot	順次アクセス, バイナリ
.dat	5	入力データ	フォーマット形式 (Fortran)
.out	6	MARC の出力	フォーマット形式 (Fortran)
.t08	8	新たに作成されるリスタートファイル	順次アクセス, バイナリ
.t08	9	前のジョブで作成されたリスタートファイル	順次アクセス, バイナリ
.t11	11	Out-Of-Core ソルバー用スクラッチ	順次アクセス, バイナリ
.t12	12	Out-Of-Core ソルバー用スクラッチ	順次アクセス, バイナリ
.t13	13	Out-Of-Core ソルバー用スクラッチ	順次アクセス, バイナリ
.t14	14	Out-Of-Core ソルバー用スクラッチ	ランダムアクセス, バイナリ
.t15	15	Out-Of-Core ソルバー用スクラッチ	順次アクセス, バイナリ
.t16	16	新たに作成されるポストファイル (Fortran)	順次アクセス, バイナリ
.t17	17	前のジョブで作成されたポストファイル (Fortran)	順次アクセス, バイナリ
.t18	18	フォーマット形式のデータ, オプティマイズテーブル	フォーマット形式 (Fortran)
.t19	19	新たに作成されるポストファイル	フォーマット形式 (Fortran)
.t19	20	前のジョブで作成されたポストファイル	フォーマット形式 (Fortran)
.t22	22	サブスペースのためのスクラッチ	順次アクセス, バイナリ
.t23	23	流体ソリッド用スクラッチ	順次アクセス, バイナリ
.t19	24	温度分布データ	フォーマット形式 (Fortran)
.t16	25	温度分布データ (Fortran)	順次アクセス, バイナリ
.t31	31	サブストラクチャ用マスターファイル	ランダムアクセス, バイナリ
.t32	32	セカント法	順次アクセス, バイナリ
.t34	34	ニュートラルプロット	フォーマット形式 (Fortran)
.t35	35	サブストラクチャ	順次アクセス, バイナリ
.t36	36	サブストラクチャ	順次アクセス, バイナリ

● Mentat II の利用方法

◇ 利用環境

Mentat II 2.3 は、センター 2 階のユーザーインターフェースワークステーション vhsun で動作します。vhsun への登録方法は今号のセンターニュースを御覧下さい。なお、Mentat II の利用は当面コンソールからの利用のみとします。

起動コマンドは `mentat(/usr/local/bin/mentat)` です。詳しい利用方法は、備えつけのマニュアルを御覧下さい。

◇ VPP700/56 とのディスク共有

vhsun のホームディレクトリ下のディレクトリ “VPP” は、kyu-cc と同様、VPP700/56 の利用者のホームディレクトリにマウントされています。従って、このディレクトリに移動することで ftp でデータの転送をすることなく MARC のプリポスト処理が可能です。

```
vhsun% cd VPP/MARC [↵]          <--- ディレクトリの移動 (MARC はあくまでも例です)
vhsun% ls [↵]                  <--- MARC の作業用ファイルが参照可能
e2x1.dat          e2x1.t19      marc.sh.e11030
e2x1.out          marc.sh       marc.sh.o11030
vhsun% mentat [↵]             <--- Mentat II の起動
```

◇ PostScript ファイルへの保存

Mentat II のグラフィックスは PostScript ファイルに保存することができます。メニューの《UTILS》の《Color file》または《Gray file》を選択して下さい。

● マニュアル

九州大学大型計算機センター 4 階図書室で閲覧可能です。Mentat II 2.3 の日本語マニュアルはセンター 2 階の vhsun 横に設置しています。

購入する場合は、直接日本マーク株式会社 (03-3345-0181) にお問い合わせください。

(ライブラリ室 ダイヤルイン 092-642-2295)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

7. VPP700/56 へのライブラリ移行のお知らせ

VP2600/10 でサポートしていた以下のプログラムライブラリ (開発課題分) が VPP700/56 でも利用可能になりましたのでお知らせします。

プログラム名	機能
CGJQ	Gauss-Jacobi 積分公式の係数
CGLQ	Gauss-Laguerre 積分公式の係数
DIFF1D, DIFF1S	解析関数の数値微分
MINMAX	線形方程式のミニマックス解
PRESNL	一般化されたフレネル積分
CA01	計算修正による関数の極小点発見
DA02	BCS 方程式
DB01-DB03	クレプシュ・ゴルダン, ラカー, 9-J 係数
KNL1	生成座標方式による直交条件モデルの積分核
VAR1	微積分方程式または積分方程式変分原理による錯乱境界条件解
TBS1	厳密 3 体理論による量子学的 3 体系束縛状態のエネルギーと波動関数
AACOUST	建築音響解析ライブラリ

● UXP からの利用

サブルーチン, 関数型のライブラリは `-lsslq` オプションを付加してリンクします。

```
#
cd EXAMPLE
frt test.f90 -lsslq
a.out
```

なお, MINMAX を使用する場合は `-lsslq -lnumpac`, AACOUST の場合は `-lsslq -lssl2vp` と指定してください。

TBS1 は従来と同じバッチリクエストで動作します。

● MSP からの利用

サブルーチン, 関数型のライブラリは Fortran のソースに記述するだけで自動的にライブラリが結合されます。

TBS1 を MSP から利用する場合は, 従来のカタログドプロシジャ VPGO と EXEC 文, DD 文の指定が異なりますので注意願います。

```
//A79999A1 JOB CLASS=W
// EXEC PGM=TBS1
//FT06F001 DD SYSOUT=*
//FT05F001 DD *
           (入力データ)
//
```

(ライブラリ室 ダイヤルイン 092-642-2295)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

8. UXP用学情網アクセスポイント及びINSパケット通信による利用方法の変更について

2月19日(水)から、標記接続での利用方法を以下のように変更いたします。

1) UXP用学情網アクセスポイント接続の場合

変更前

下表の学情網アクセスポイント一覧のいずれかに電話をかけ NACSIS-NET の表示に続いて 9817400 を入力しますと直接 UXP (ホスト名:kyu-cc) に接続されます。

変更後

下表の学情網アクセスポイント一覧のいずれかに電話をかけ NACSIS-NET の表示に続いて 9817400 を入力しますと、一旦ワークステーション(ホスト名:kyu-x29)に接続されますので UXP と同じログイン名とパスワードを入力してログインします。その後は telnet コマンド等で UXP に接続します。

学情網アクセスポイント一覧

設置場所	電話番号	設置場所	電話番号
北海道大学	011-746-0608	大阪大学	06-878-9864
東北大学	022-268-7706	広島大学	0824-22-9353
学術情報センター	03-5395-1285	九州大学	092-632-5057
名古屋大学	052-781-5995		

以下に、接続例を示します。

パソコンの通信パラメタを次のように設定します。通信速度は300~9600bpsの間で指定します。

通信方式	フロー制御	データ長	パリティビット	ストップビット	日本語コード
全二重	RS/CS	7ビット	偶数(EVEN)	1ビット	新JIS

北海道地区の人がパソコンから北海道大学の学情網アクセスポイントに電話をかける場合の例です。下線部が入力部分です。

atdp0117460608

⋮

NACSIS-NET

9817400

COM

⋮

UNIX(r) System V Release 4.0 (kyu-x29)

login: k79999a

password: xxxx

⋮

kyu-x29% telnet kyu-cc

⋮

UXP/M TELNET (kyu-cc)

login: k79999a

password: xxxx

kyu-cc% jstrset -j jiskana7 -a 'YE(J) このコマンドで日本語コードを新JISに設定します。

2) UXP用INSパケット通信接続の場合

変更前

INSパケット通信用電話番号(1-4401-9524311)に電話をかけますと直接UXP(ホスト名:kyu-cc)に接続されます。

変更後

INSパケット通信用電話番号(1-4401-9524311)に電話をかけますと、一旦ワークステーション(ホスト名:kyu-x29)に接続されますのでUXPと同じログイン名とパスワードを入力してログインします。その後は telnet コマンド等でUXPに接続します。

以下に、接続例を示します。

パソコンの通信パラメタを次のように設定します。通信速度は300～19200bpsの間で指定します。

通信方式	フロー制御	データ長	パリティビット	ストップビット	日本語コード
全二重	RS/CS	8ビット	なし(NONE)	1ビット	EUC(DEC漢字)

パソコンから以下のように入力して接続します。下線部が入力部分です。

```
<<PAD>>
144019524311
:
COM
:
UNIX(r) System V Release 4.0 (kyu-x29)
login: k79999a
password: xxxx
:
kyu-x29% telnet kyu-cc
:
UXP/M TELNET (kyu-cc)
login: k79999a
password: xxxx
kyu-cc%
```

(ネットワーク掛 ダイヤルイン 092-642-2309)

9. 可視化システムの利用について

センターニュース No. 549 でお知らせしました可視化システムの可視化用サーバ (Silicon Graphics i-Station) とユーザインターフェースワークステーション (FUJITSU S-7/300U) の利用法についてお知らせします。

1) 可視化システムのホスト名

可視化システムで動作する AVS 等のソフトウェアは、コンソールから利用することで高速に描画することができます。コンソール利用者の高速処理を保証するためとソフトウェアライセンスの制約により、当面、

可視化システムはコンソールからの利用のみとします。

ホスト名と設置場所は以下のとおりです。

なお、可視化システムはどちらも ATM インターフェースを備えており、センターと ATM ネットワークで接続されているため、スーパーコンピュータ VPP700 と高速にデータ転送ができます。

	i-Station ホスト名	S-7/300U ホスト名	設 置 場 所
箱崎地区	vhsgi	vhsun	大型計算機センター 2 階ワークステーション室
病院地区	—	vbsun	附属図書館医学分館 3 階 LL 室
筑紫地区	vcsgi	vcsun	機能物質科学研究所端末分室 (北棟 2 階 202 号室)
六本松地区	—	vrsun	本館 2 階計算機情報控室 (215-3 号室)

*i-Station には画像の入出力のための S-VHS レコーダと A0 判プリンタが付属しています。

2) 利用手続き

可視化システムを利用するにはセンターの利用資格が必要です。

センターに利用資格のない方はまず、センターに利用申請して利用者登録を行い、その後に可視化システムの利用者登録を行うといった手続きが必要です。

a. センターへの新規登録申請

申請の手続きは、センター所定の「計算機利用申請書」に必要事項を記入し、センター共同利用掛に提出してください。申請書用紙はセンター共同利用掛 (電: 092-642-2305) にあります。

申請承認後、下記の計算機に利用者登録を行い、利用者宛「計算機利用承認書」を送付します。

- kyu-cc (汎用コンピュータ UXP)
- kyu-msp (汎用コンピュータ MSP)
- wisdom (ライブラリサーバ)

- kyu-ts (端末サーバ)
- kyu-x29 (パケット用端末サーバ)

なお、スーパーコンピュータ kyu-vpp 及び kyu-vpux にも自動登録を行いますが、こちらは当分の間、NQS によるバッチ利用のみで TSS は利用できません。

b. 可視化用サーバ i-Station への登録

i-Station への登録は利用者自身で行います。センターの利用者登録が済んだら研究室等の端末から、kyu-cc (IP アドレス: 133.5.9.1) に login して下記の手順で利用者登録を行ってください。

```
% telnet 133.5.9.1
:
UXP/M TELNET(kyu-cc)
login: k79999a           :センター発行の登録番号の7桁を入力する
password: _____    :新規の場合は初期パスワードを入力する
:
kyu-cc% touroku vhsgi  :vhsgi に登録する場合
password: _____    :上記の kyu-cc と同じパスワードを入力する
                        このパスワードが vhsgi のパスワードとなる
adduser: OK. User k79999a in vhsgi.
```

c. ユーザインターフェースワークステーション S-7/300U への登録

S-7/300U への登録は利用者自身で行います。研究室等の端末から、kyu-cc (IP アドレス: 133.5.9.1) に login して下記の手順で利用者登録を行ってください。

```
% telnet 133.5.9.1
:
UXP/M TELNET(kyu-cc)
login: k79999a           :センター発行の登録番号の7桁を入力する
password: _____    :新規の場合は初期パスワードを入力する
:
kyu-cc% touroku vhsun  :vhsun に登録する場合
password: _____    :上記の kyu-cc と同じパスワードを入力する
                        このパスワードが vhsun のパスワードとなる
adduser: OK. User k79999a in vhsun.
```

d. 登録時の注意点

センターがサービスしている各マシンは NIS 管理をしていませんので、パスワードを変更した場合はそのマシンのみのパスワードとなります。

また、サービス時間外（「7）サービス時間」参照）などで可視化システムが停止している場合は登録できません。動作しているときに再度登録してください。

3) 利用できるソフトウェア

可視化システムで動作するソフトウェアは以下のとおりです。

各ソフトウェアの利用マニュアルは各地区の可視化システムの横に置いています。

機 器	ソフトウェア名	
i-Station	ビジュアライゼーション用ソフトウェア 言語プログラム	AVS, Viz/Express Fortran90 C
S-7/300U	プリ・ポスト処理プログラム 汎用三次元流体解析システム 計算材料設計システム 非線形動的構造解析システム ビジュアライゼーション用ソフトウェア 言語プログラム 言語処理支援 バッチ処理システム	α -FLOW入力モジュール α -FLOW出力モジュール MASPHYC/WB FEMB AVS, Viz/Express Fortran90 C VPP Workbench NQS

4) 可視化システムでのファイル利用

1) ホームディレクトリ

・可視化システムに対し利用者登録を行うと、可視化システムにホームディレクトリと下記のスタートアップファイルが自動作成されます。

- ・ホームディレクトリ : /home/user/登録番号
- ・自動作成ファイル : .login .cshrc .logout VPP
(S-7/300U のみ) .Xinitrc .twmrc

・可視化システムのホームディレクトリ配下には自由にファイルの作成・消去などができます。

可視化システムのハードディスクに作成したファイルの利用負担金は不要です。

ただし、容量に限りがありますので利用者が作成したファイルは原則として最終参照日から2週間で消去します。

従って、必要なファイルはユーザ側でバックアップしてください。

2) スーパーコンピュータのファイルの利用 (NFS)

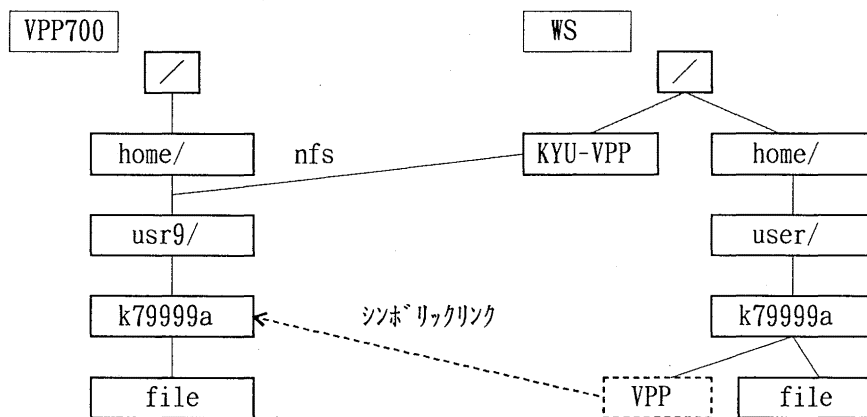
可視化システムにはスーパーコンピュータ VPP700 の利用者ディスクを NFS マウントしています。

可視化システムに利用者登録を行うと、ホームディレクトリの下に "VPP" というディレクトリが自動作成されます。S-7/300U の NQS を利用して VPP700 でジョブを実行する場合、使用するソースプログラム、データは必ずホームディレクトリの "VPP" 下に作成してください。

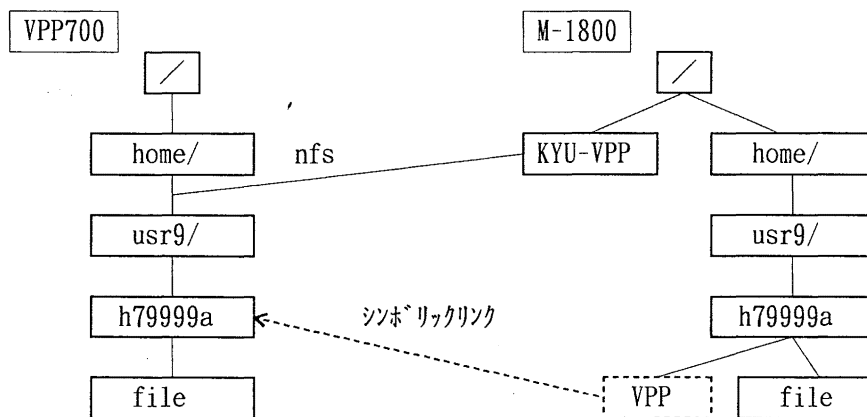
詳細はセンターニュース No. 550 「新スーパーコンピュータの利用方法について」を参照してください。

3) ファイル関連図

- ・可視化システム (WS) と VPP700



- ・汎用コンピュータ M-1800 と VPP700



5) A0 判プリンタへの出力

箱崎地区と筑紫地区には i-Station に付属して A0 判プリンタを設置しています。

i-Station に login して a0lpr (l はエル) コマンドで出力してください。

A0 判で印刷した場合の所要時間は約 1 時間で、出力後、紙面の乾燥に約 30 分を要します。

プリンタの操作法はプリンタ装置の横に置いている「可視化システム使用説明書」を参照ください。

```

welcome to vhsge
iRIX 6.2

login:
password:

```

コンソールの初期画面でlogin 名とパスワードを入力する。

```

*****
***      UXP charge      = 42372 yen      ***
***      MSP charge      = 40320 yen      ***
*****
vhsge% avs
      :   avs で作成した図形ファイルや、ps ファイル
      :   を用意する
      :
      :
vhsge% a0lpr test.ps
test.ps をこれからプリンタに送ります。
                よろしいですか?(y | n) [y] :y

```

6) 利用負担金

可視化システムのワークステーション、及び A0 判プリンタを利用する場合は「九州大学大型計算機センターの利用に関する暫定措置を定める規定」によって、下記の利用負担金が必要となります。

その他、スーパーコンピュータや汎用コンピュータでジョブを実行したり、ファイルを作成すると演算負担金やファイル負担金など、使用した計算機の利用負担金が必要となります。

- ・可視化用サーバ、ユーザインターフェースワークステーションの利用負担金
使用時間 (login から logout まで) 1 分につき 3 円
- ・A0 判プリンタの利用負担金
用紙 1 枚につき 4, 0 0 0 円

7) サービス時間

サービス時間は下記のとおりですが、停電等で利用できないことがありますので、機器室の掲示等にご注意ください。

地区	サービス時間	管 理 窓 口
箱崎地区	9:00~23:00 3月から22:00迄	大型計算機センターシステム運用掛 ☎092-642-2307 2階受付の端末予約表に記入してください。

病院地区	9:00～17:00	附属図書館医学分館受入目録掛	☎641-1151(内)3201
筑紫地区	9:00～17:00	機能物質科学研究所 柿本助教授	☎092-583-7836
六本松地区	9:00～17:00	比較社会文化研究科等事務部工営掛	☎092-726-4519

可視化システムについての問い合わせは各地区の管理窓口、または下記にお願いします。

大型計算機センター システム運用掛

電話： 092-642-2307

E-mail: request@cc.kyushu-u.ac.jp

8) その他

可視化システムの利用についての詳細は「可視化システム使用説明書」を参照ください。使用説明書、及びマニュアルは各地区の可視化システムの横に置いています。

また、i-Station から利用できる S-VHS レコーダの操作法も「可視化システム使用説明書」を参照ください。

(システム運用掛 ダイヤルイン 092-642-2307)

10. 平成9年度プログラム相談員募集のお知らせ

当センターでは、プログラム相談を月曜日から金曜日の午後行っています。質問者への助言、技術指導等のため下記によりプログラム相談員を募集しますのでお申し込みください。

なお、詳細については共同利用掛へ連絡ください

記

- | | |
|---------|---|
| 1. 応募資格 | センター利用有資格者 |
| 2. 担当時間 | 週1回 (1.5時間)
但し、夏季休業中(7月11日～9月10日)は期間内に2回程度 |
| 3. 任 期 | 平成9年4月 ～ 平成10年3月 |
| 4. 特 典 | 指導用計算機時間(年間120分)
相談用マニュアル(一定限度まで配付) |
| 5. 申込期間 | 平成9年2月21日(金) |
| 6. 申込み先 | 九州大学大型計算機センター
共同利用掛(ダイヤルイン 092-642-2305) |